

大阪府摂津市民の健康・栄養とウェルビーイングに関する縦断調査（摂津スタディ）



身体活動研究センター
センター長 小野 玲

01 研究の背景・目的

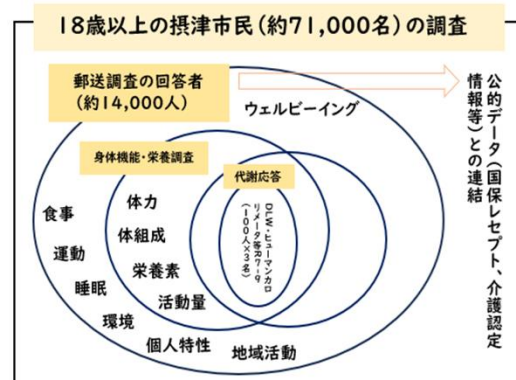
本研究は、摂津市が進める「健康・医療のまちづくり」の一環として、大阪府摂津市民の健康課題をライフコース別に明らかにするために、健康・栄養とウェルビーイング（人生の豊かさ）に関する調査を行うものです。

市民の生活習慣、心身状態、性自認、居住環境等が、将来の要介護状態や認知症の発症、緊急搬送の頻度等の健康状態とどのように関連するかを今後20年間にわたり摂津市から頂く公的データも活用しながら調査します。また、フレイルや認知症等の予防研究への活用や個々人に最適化された健康・栄養指導等の実現を目指します。

02 研究内容（特徴・独自性）

● 周辺自治体（摂津市）と連携した大規模コホート研究です。

18歳以上の者（要介護3以上の認定を受けている方を除く）約71,000人に記名式アンケート（20ページ以上）を実施（令和6年2月）。回答数は**1.4万人超**。回答全体の**約50%が65歳未満**であり、若い世代から高齢の世代までの幅広い世代の健康状態とその将来の動向について把握が可能です。また**1万人超規模で20年間の継続的な調査**が可能であるため、日本でも数少ない研究の基盤が構築できます。



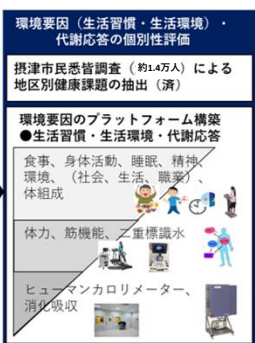
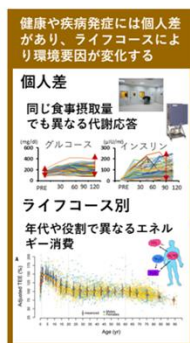
● アンケートでは、生活環境（地域とのつながり・社会参加）、生活習慣（生活パターン、食事、家族や生活状況）などの環境要因等の調査項目を複数設定しており、今後、様々な公的データと連結し分析します。

● 個人的要素によって疾病の発症リスクは異なるが、これまでライフコースに応じた環境要因が個人的要素を修飾できるかは大規模な疫学的研究で明らかにされていなかった。この研究では、「個人差や性差」に着目した疾病発症リスクの検証が可能です。

↓
個人的要素・環境要因を総合的に把握するヘルスクリエイトプラットフォームを構築し、ライフコースに応じた健康課題を明らかにすることが可能。

● 今後、アンケートに回答した市民を対象にして、血液や腸内細菌・ゲノム情報や免疫応答などの個人的要素を追加で調査し、AI解析などを用い、健康状態を詳しく調べ、後天的な生活習慣を考慮した個別最適化した健康・栄養指導の実現を目指します。

● 研究エビデンスをもとに、人々の生活行動を変容させ、生活習慣病・認知症を予防できるまちづくりを地域とともに目指します。



今後、様々な追加調査を行う予定

👍 アピールポイント（期待される効果・応用）

- ライフコースに応じた健康課題を明らかにすることが可能のため、効果的な個人や地域の健康づくりや地域のまちづくりに活用できます。
- フレイルや認知症予防研究への活用や、非薬物的治療の環境整備等に貢献できます。
- 自治体や社会貢献活動を行う企業等、疾病予防や健康の増進に取り組まれる幅広いアクターからのお声がけをお待ちしております。

身体活動研究センター
<https://www.nibn.go.jp/activities/physical-activity-research.html>



関連する情報

今後の活動は、
摂津スタディのHPでも
ご確認ください。

<https://www.nibn.go.jp/eiken/settsu.study/>



研究キーワード

個別最適化、コホート研究、ライフコース
摂津スタディ、まちづくり、フレイル、認知症

是非、ご相談ください